

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	くらふとスポーツキッズ		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2025年 12月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数) 26名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2025年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動療育の幅が広く、たくさん身体を動かすことができる	事業所だけの室内運動(マット・跳び箱・鉄棒)だけではなく、公共施設(プールや体育館)を借りているので、泳法の取得やボール運動の活動が行える。	跳び箱の段数をあげたり、泳法だけではなく、ターンなどの技術も身につけられるように支援していく。
2	支援視覚が充実している	児童には、ホワイトボードを使用。活動の流れや、技の名前を文字やイラストで分かりやすく提示しています。また、時計にもシールを張り、終わりの時間を意識できるようにしています。	児童の様子をよく観察して。今後も必要な資格支援ツールを用意していきます。
3	活動中の様子を実際に見ただけことが満足度が高いです	参観日を設けており、実際に運動している様子を見ていただいています。出来るようになったことを見てもらうことで、保護者だけではなく、児童の自信にもつながっています。	披露する技の難易度も状況や様子に合わせて変えていき、より成長した姿を多く見せられるようにしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	インスタグラムのアカウントを知っている保護者様が多く、周知が十分ではないと考えられる。	・今後も情報発信を続けていく ・周知の方法を検討してまいります
2	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	通所の際は必ず階段の上り下りが必要となり、未就学の子どもは十分な配慮が必要と考えております。	・職員が付き添い、会談での安全管理に努めます。 ・出来る限り安心、安全に通っていただけるように今後も継続してまいります。
3	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	公共施設を利用してをりますが、他のお子さまと活動する機会は今現在持っておりません。	ニーズに応じて今後検討してまいります。